



# 創刊五十周年記念号

## 目次

創刊50周年を迎えて	能村 研三	16
主宰記念作品50句「創刊立志」	能村 研三	18
副主宰記念作品30句「近詠」	森岡 正作	28
特別寄稿		
俳句と経済	堀切 実	34
「沖」とは何だったのか	筑紫 磐井	38
「沖」あの頃・先輩諸氏より		
登四郎の言葉など	今瀬 剛一	42
肩の手は能村研三	鈴木 節子	44
師恩友情感謝感謝	大関 靖博	46
「沖」の思い出	鎌倉 佐弓	48
初学の頃	波戸岡 旭	50
台風前夜・徳利・繭	正木ゆう子	52
掌中の珠	中原 道夫	54
膝元で学んでおれば：	大島 雄作	56
エディターが語る沖		
伴走する編集者	石井 隆司	58
四十三年の歳月とともに	山岡喜美子	62
この五十年を抱きしめて百年時代へ今！	西井 洋子	66
俳句の新時代		
俳句をネットに	秋尾 敏	70
インターネット句会の未来	大西 朋	72
氣多大社における主宰句碑	道端 齊	74
沖の沖	能村 研三 抽出	表2
水平線 北川英子	岡部 玄治	1
蒼茫集Ⅱ同人〈作句〉作品Ⅰ		78
千田百里／辻美奈子／大畑善昭／田所節子／能美昌二郎 成宮紀代子／宮内とし子／七種年男／菊地光子／楠原幹子 栗原公子／大沢美智子／林昭太郎 他		
潮鳴集Ⅱ同人〈俳句〉作品Ⅱ		90
森村江風／平松うさぎ／内山花葉／齊藤 實／町山公孝 荒井千瑛子／諸岡和子／川高郷之助／栗坪和子／藤代康明 他		
沖の水脈 能村研三推薦・今月の30句	能村 研三	112
飛鷹選評	能村 研三	114
沖の俳景〈沖・八月号より〉色で詠む	島貫 恵	116
現代秀句鑑賞	塙 誠一郎	118
鳩の潜航31 林翔の随想を読む	鈴木 光影	120
沖の源流 ―沖作品に辿る50年―		121
沖50周年に残す私の大切な一句		234
同人往来	望月 晴美／楠原 幹子	246
紙上初学句会Report ワイド版 森岡正作／辻美奈子	小林 陽子・記	248
同人作品評 白南風通信〈八月号より〉	磯貝 尚孝	250
沖作品Ⅱ能村研三・選		252
中村重幸／宮岡 弘／里村梨都／小倉征子／浜田はるみ 加賀莊介／澤田英紀／佐藤克江／小坂尚子／宮下桂子 他	能美昌二郎	264
渚の花〈八月号二・三句欄選評〉		
巻頭のつぶやき 沖からの新しい風に吹かれて	中村 重幸	269
磯あそび お題「紙」	成宮紀代子／小松 誠一／佐々木よし子	270
支部句会通信 東葛／埼玉／館山	藤原 照子	272
沖年譜 第五百四十一号より第六百号まで		280





▲沖創刊記念祝賀会 S45.10.18 市川市勤労福祉会館



撮影：内山照久

写真のつぶやき P.279



▲H28.9.17 青葉の森公園にて



能村研三 主宰

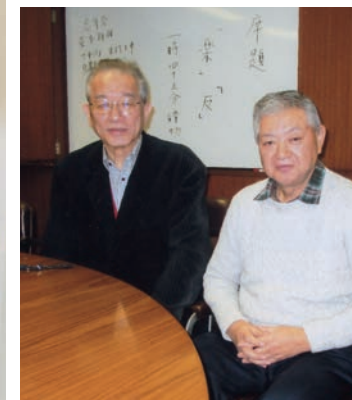


▲沖3周年記念大会 S48.10.21 大神宮会館

主宰・副主宰  
近影



森岡正作 副主宰



▲横浜市技能会館にて煤逃句会

水平線

岡部 玄治

秋風の鈴音まじりや阿波に入る

北川 英子

福永耕二に俳句の手ほどきを受け、昭和49年  
沖入会。58年新人賞。沖賞は入会15年目の平成  
2年。速い駆け上がりといえよう。

螢籠ゆすりて今はの火を強ひぬ  
兜虫死闘といふは音のなき

などの句に表現にかける熱意の投影を見る思  
いがする。事実、坂巻純子、北村仁子といった  
沖を代表する女性俳人に並び立たんと闘志を燃  
やしていた。また編集長、同人会長として人望  
を集め、敏腕をふるった。平成30年逝去。

掲出の句は秋風、阿波のあ音ふたつの音律が  
心地よい。秋風の印象を鈴音まじりやと詠嘆し  
たところに秋遍路の気配すでに漂っている。句  
中に遍路の語を使わず、それとなく思わせるこ  
とによって秋の阿波の趣をより深めている。

平成元年刊句集「八荒」所収



▲創刊1周年記念大会 S46.10.3 大神宮会館